



男鹿半島・大潟 ジオパーク



寒風山の溶岩地形のひとつ「鬼の隠れ里」

男鹿半島を代表する名水「滝の頭湧水」

ジオサイト1 寒風山

寒風山(354.8m)は、2万年あまり前に数回の噴火を繰り返してできた複成火山です。山頂からは八郎潟干拓地(大潟村)や3つの火口などの火山地形が一望のもと。山麓には「滝の頭(がしら)」などの水量豊富な湧水群もあります。



「鬼の俵ころがし」。ピンク色の花こう岩を岩脈(ジオサイト6を参照)が貫いています

鹿落崎の断崖

ジオサイト4 入道崎

入道崎には日本列島がユーラシア大陸の一部であったころにできた、男鹿半島で最も古い岩石が分布しています。「鬼の俵ころがし」では、およそ9000万年前の花こう岩を、鹿落崎(しおとしぎき)では、およそ7000万年前の火山噴出物が固まった溶結凝灰岩(ようけつぎょうかいがん)を見ることができます。



ゴジラ岩

ゴジラのしっぽ岩

カメ岩(潮瀬崎灯台)

ガメラ岩

ジオサイト2 安田海岸

海に沿って500m以上続く崖に、およそ50年から8万年前までの地層がほとんど切れ目なく続いています。地層の中に残されている貝化石、火山灰、植物が炭化した亜炭などから、男鹿半島の大地の歴史を知ることができます。初めて行く人は、ジオガイドに案内してもらおうとよいでしょう。

安田海岸の地層。古いものほど東側(左)に大きく傾いています



二ノ目潟と戸賀湾

ジオサイト5 八望台

八望台の展望台からは、三ノ目潟を除く一ノ目潟、二ノ目潟と戸賀湾が望めます。3つの目潟は地下からのぼってきたマグマと地表近くの地下水が接触し、大爆発(マグマ水蒸気爆発)を起こしてできたぼ地に水がたまったもので、マールといえます。戸賀湾もほぼ同じようにしてできました。

ジオサイト3 西黒沢海岸

西黒沢海岸の地層は、日本海ができたばかりのころ(およそ1500万年前)の、浅く暖かな海で形づけられました。岩石の表面を目をこらして観察すると、ホタテガイやウニ、オパキュリナというプランクトン(浮遊性有孔虫)など、海の生物の化石を見つけることができます。



生鼻崎の露頭



ジオサイト6 男鹿水族館付近

男鹿水族館GAO前の海岸では、塔のようにそびえていたり、キャタピラのような割れ目のある岩石が、平坦なまわりの岩石を突き破って伸びています。これは地下から上がったマグマが、もともとあった岩石に後から入り込み、地中で冷えて固まったもので、岩脈(がんみゃく)といえます。

ジオサイト7 潮瀬崎

潮瀬崎といえば、なんといってもゴジラ岩。3000万年あまり前の火山噴出物でできた岩石が、長い時間をかけて潮風や波の力を受け、今の形になりました。ほかにも面白い名前がついた奇岩や生き物が這(は)ったあとの化石、穴欠(あなけつ)などのジオポイントが豊富で、探しながら岩場を歩くだけでも楽しめます。



ウニの仲間スカシカンパンの化石

ジオサイト8 館山崎

グリーンタフとは、火山灰などの火山噴出物が積み重なってできた凝灰岩(ぎょうかいがん)が、熱水(ねっすい)などで変質して緑色となったもので、ここ館山崎がその名称の発祥の地といわれています。落石の危険があるので、見学の際には露頭(岩石や地層が地表に露出した場所)にあまり近づかないようにしましょう。



生鼻崎の露頭

ジオサイト10 生鼻崎

国道101号の生鼻崎トンネルの上に、茶色の砂の層と白っぽい泥の層が互い違いに重なっている大きな崖があります。この縞(しま)模様の層は、深かった海が少しずつ持ち上げられて次第に浅くなっていった、およそ70年から60万年前ころにできた地層と考えられています。崖の上にある中世の城館跡、「脇本城跡」(国指定史跡)も訪ねてみましょう。



八郎潟干拓記念水位塔

大潟富士

ジオサイト12 大潟富士

大潟富士は、平成7年に盛り土をして誕生した人工の山です。高さが富士山の標高の千分の一にあたる3.776m、山頂はちょうど海拔0mになります。隣に並ぶ八郎潟干拓記念水位塔も、球体の中心部分(横棒)が大潟富士と同じ高さで、かつての八郎潟の湖水面を示しています。

ジオサイト9 鶴ノ崎海岸

鶴ノ崎海岸は、1000万年ほど前は2000m以上も深い海の底でした。静かに泥が積もっていた海の底は、やがて長い時間をかけて大地の力によって持ち上げられ、波によってけずられて、今のような遠浅の海岸になりました。波打ち際の泥岩(でいがん)からは、当時の海で泳ぎまわっていた魚の骨の化石が見つかることがあります。



中央幹線排水路

南部排水機場

ジオサイト11 南部排水機場

大潟村は、もとは湖の底だったころにできた人工の大地で、海拔0mより低いところに入びとが暮らしています。そのため、村内2か所に排水機場を設け、幹線排水路に集められた干拓地内の水を休みなく汲みだしています。このうち南部排水機場は平日であれば内部の見学が可能で、展望デッキから干拓地と排水路、八郎潟の残存湖(八郎湖)を望むことができます。



経緯度交会点表示塔

表示塔前に広がる稲穂の海

ジオサイト13 経緯度交会点表示塔

干拓で陸地化されたことによって、北緯40度と東経140度が交わる交会点が大潟村に誕生しました。日本の陸地では、10度単位で緯線と経線が交わっているのはこの地点だけです。表示塔の周囲は広大な干拓地の風景が広がっています。

男鹿半島には、過去7000万年にわたる大地の歴史をほぼ連続して観察できる地層がそろっています。八郎潟を干拓して誕生した日本最大の干拓地大潟村を含んでいることも大きな特徴で、人と大地が育んだ素晴らしいジオの景観を、四季を通じて満喫できます。

ジオガイドの申込み

男鹿半島・大潟
ジオパークガイドの会
(男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会事務局)
☎0185-24-9104

7000万年のジオストーリーをわかりやすく解説しながら、ジオサイトを案内します。ガイドの予約は1週間前までにお申し込みください。有料。

【男鹿半島・大潟ジオパークの観光情報】

なまはげ館
☎0185-22-5050
男鹿市北浦真山宇水噴沢地内
実際に使われていた110体ものなまはげ面が勢ぞろいするコーナーは圧巻。隣接している真山伝承館では、真山地区で行われている大晦日のなまはげ行事を間近で体験することができます。
開館時間:8時30分~17時
休館日:年中無休
入館料:一般540円、小中学生・高校生270円
※真山伝承館との共通入館料:一般864円、小中学生・高校生540円

男鹿総合観光案内所(男鹿市観光協会)
☎0185-35-5300
男鹿市船越字一向207-219
男鹿半島の入口で、15mの巨大なマハグがお出迎え。案内所内にあるジオビジターセンターでは、現地に行く前に情報収集ができるので要チェックです。
利用時間:9時~18時

産直センター潟の店
(道の駅・おおがた)
☎0185-22-4141
南秋田郡大潟村字西5-2
大潟村の新鮮な農産物や加工品を多数販売。干拓博物館に隣接しています。

◇男鹿市産業建設部観光商工課
☎0185-24-9141 男鹿市船川港船川泉台66-1
◇大潟村総務企画課
☎0185-45-2111 南秋田郡大潟村中央1-1

【男鹿半島・大潟ジオパークの拠点施設】

男鹿市ジオパーク学習センター
☎0185-46-4110 男鹿市角間崎字ノ下452
男鹿半島の大地の成り立ちを、子供から大人まで楽しみながら学べる展示学習施設。男鹿市役所若美庁舎2階にあります。解説員がわかりやすく説明してくれるので、ここで予習をしてからジオサイトに出かけましょう。
開館時間:9時~16時
休館日:毎週月曜日(祝日の場合はその翌日)
入館料:無料

大潟村干拓博物館
☎0185-22-4113 大潟村字西5-2
八郎潟のおい立ちと、大潟村の歴史、農業、環境などをテーマごとに展示。平成25年には、干拓地の地層の剥ぎ取り標本や、採集された貝化石の展示が新たに追加されました。
開館時間:9時~16時30分
休館日:毎月第2・第4火曜日(10月~3月は毎週火曜日、祝日の場合はその翌日)
入館料:一般・大学生300円、小中学生・高校生100円



●大潟村の案内
干拓博物館内や村内のジオサイトを大潟村案内ボランティアの会のメンバーが案内します。1週間前まで干拓博物館(上記)の電話番号までお申し込みください。